

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調書

| | | | |
|---------------|---|--|--|
| (1) 取組名 | 「アスリートヴィレッジと市民活動の融合による滞在型快適温泉地環境プロジェクト」 | | |
| (2) 実施団体名 | 上山市温泉保養地まちづくり協議会 | (3) 対象地域 | 上山市 |
| (4) 代表団体名 | 上山市 | (5) 推薦団体名 | |
| (6) 実施した取組の内容 | 取組① | 新たな温泉保養地を目指すための気候・地形療法プログラムの効果検証とシンポジウム及び地形療法現地指導講習会の開催 | |
| | 実施主体 | 主担当: 上山市 (共同担当組織: かみのやま温泉旅館組合、上山市観光協会、上山温泉利用協同組合) | |
| | 実施内容、実施結果 | 当初提案により予定していた計画 | 実際の取組内容及びその結果 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 歩行コースの設定、気候・地形療法プログラムの効果検証、シンポジウムと現地指導講習会の開催。 ・実施時期: 効果検証 10月～2月、シンポジウム 3月中旬 ・実施場所: 効果検証 西山、蔵王高原坊平 ・取組の目的: 気候・地形療法プログラムの効果を実証し、上山型温泉保養地を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 日本で初めて、ミュンヘン大学シュー教授の鑑定で気候・地形療法の歩行コースを3か所設定。気候・地形療法の効果を検証するため31人のモニターが1月間歩行し、効果の比較対象群も含めると総勢50数名で医科学検証を実施。検証データ解析の結果、中性脂肪値の減少、HDLコレステロール値の上昇など健康増進に資する効果を示した。 ・実施時期: 効果検証 10月～2月、シンポジウム・現地講習会 3月15～16日開催予定 ・実施場所: 効果検証 西山、蔵王高原坊平 ・取組の結果: 気候・地形療法プログラムの効果が日本で初めて本格的に実証された。市民や観光事業者に上山型温泉保養地を目指す共通認識ができ、この医科学効果を活用した次年度以降の事業内容に着手する取組が始まった。また、ウォーキングモニターの熱心な参加があり、自主的にウォーキング市民団体をつくり、活動を開始している。この方々を指導者として育成し、活用していく。 |
| | 取組② | 新たな温泉保養地、クアオルト(保養・療養地)としての実践及び温泉地環境整備、温泉入浴アドバイザー養成研修開催、蔵王高原坊平との連携交流 | |
| | 実施主体 | 主担当: 上山市観光協会 (共同担当組織: かみのやま温泉旅館組合、上山温泉利用協同組合) | |
| 実施内容、実施結果 | 当初提案により予定していた計画 | 実際の取組内容及びその結果 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 温泉入浴アドバイザー養成研修会の開催 ・実施時期: 11月～12月 ・実施場所: 市内温泉旅館 ・取組の目的: 気候・地形療法と温泉の有効活用を指導する人材の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 温泉入浴アドバイザー養成研修会を、温泉の効能、温泉療法、気候・地形療法、森林療法、水治療法、海洋性療法、クアオルト学、自然、歴史伝統文化など総合的なカリキュラムで開催。 ・実施時期: 1月13～14日、20～21日 ・実施場所: 市内 月岡ホテル ・取組の結果: 市民や観光関係者59人の受講があり、本格的に自然や温泉資源を有効活用を指導する人材育成を実施。温泉関係者だけでなく、約半数が市民であり、関心の高まりがあった。温泉入浴アドバイザーのいる温泉地として、情報発信を図っていく。 | |
| 取組③ | 健康志向者向けの高品質なサービス提供、地元食材の提供、温泉地との連携 | | |
| 実施主体 | 主担当: 蔵王坊平観光協議会 (共同担当組織: 農産物直売組合、ヤマコーリゾート株式会社) | | |
| 実施内容、実施結果 | 当初提案により予定していた計画 | 実際の取組内容及びその結果 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 食事栄養の学習会の開催、食事メニューの開発 ・実施時期: 10月～2月 ・開催場所: 市内 ・取組の目的: 健康づくりに滞在される来訪者に健康に適した食事メニューの作成。 | <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 地元食材の活用方法の具体例を、地元管理栄養士からは食事の栄養バランスについてを学習し、6回の部会を開催し、活用する食材の絞り込み。 ・実施時期: 10月～2月 ・開催場所: 市役所会議室 ・取組の結果: 地元食材の掘り起しができ、具体的な料理を試作。この事業効果で、市民の中での食に対する機運が盛り上がり、市民団体や事業者が県内の海や山の地区と連携する食の祭典を実施。次年度以降は、コミュニティビジネスの創出に着手する。 | |

| | | |
|--|---|---|
| <p>取組④</p> <p>実施主体</p> | <p>市民活動融合ワークショップ開催によるコミュニティビジネスの創出とホスピタリティの向上</p> | |
| | <p>主担当: 上山まちづくり塾 (共同担当組織: くだものうつわ、田舎時間、ほおづき・紅花栽培グループ、華の会、観光果樹園協議会、観光協会、温泉旅館組合、温泉利用協同組合、蔵王坊平観光協議会、ヤマコーリゾート㈱、農産物直売組合)</p> | |
| (7)実施体制 | <p>当初提案により予定していた計画</p> | <p>実際の取組内容及びその結果</p> |
| | <p>・実施内容: 観光ニーズアンケート、ワークショップの開催、コミュニティビジネスの検討 ・実施時期: 11月～3月 ・実施場所: 市内 ・取組の目的: 滞在型の温泉保養地づくりに必要なサービスとおもてなしを検討し、さらにコミュニティビジネスの可能性を探る。</p> | <p>・実施内容: 観光ニーズアンケート(現在1,000枚回収済)、ワークショップ3回開催、併せてコミュニティビジネスの可能性も探った。 ・実施時期: アンケートは3月まで。ワークショップは12月5日、18日、1月14日 ・実施場所: アンケートは市内宿泊施設、飲食店。ワークショップは、上山城、市役所、カミン、月岡ホテル ・取組の結果: 市内に点在する資源の発掘、育成、強化に取り組み、様々な提案が出され、一部取組が始まった。①従来廃棄物であった果樹の剪定木を活用し、木製の器を作成 ②気候・地形療法を取り入れたウォーキンググループが組織され、市民や観光客への指導を行なう。③地元食材を活用し健康をテーマにした加工品を、市民団体・高校生・事業者が連携して商品化を実施。④楽しく滞在するための余暇活動プログラムの開発を実施。</p> |
| (8)取組により得られた成果 | <p>平成20年度の取組実施における体制・役割分担</p> | |
| | <p>上山市温泉保養地まちづくり協議会 代表: 上山市(受託者) NPO法人健康保養ネットワーク 事業協定に基づく共同実施 ○効果検証 旅館組合 ○シンポジウム・現地指導講習会 旅館組合 ○アドバイザー研修会 観光協会 ○食事メニュー開発 農産物直売組合 ○ワークショップ 上山まちづくり塾</p> | <p>取組の実施を踏まえた反省点 協議会については、幹事会を設けずに構成団体の代表者で構成し、5つの部会制にしてタイムラグの少ない活動組織にしたため、各部会員が主体的で効果のある活動が実施された。当初計画からなかった医師会や商工会からも参加した。特に医師会の代表として加わってもらった長岡先生からは、病院を挙げたの協力を受け、本格的事業化に向けて医師会との連携が強まった。部会制での反省点は、他の部会の活動が見えにくく、適宜代表者会議等を開催し情報の共有を密に図る必要があったことである。</p> |
| | <p>○成果1→ アスリートヴィレッジ施設利用者数の増</p> | |
| | <p>H19</p> | <p>H20(当初予定していた目標)</p> |
| | <p>44,989人</p> | <p>51,700人</p> |
| | <p>H20(実際に得られた成果)</p> | |
| | <p>45,303人(12月までの累計で、前年同月比101.8%と微増。スポーツ合宿団体数は、630団体から856団体と大幅増。) この事業により知名度が上がり、文部科学省のナショナルトレーニングセンター高地トレーニング強化拠点施設に指定され、北京五輪出場国(バーレーン王国)選手団による調整に利用される等、アスリートの利用者が増加した。また、市民の健康増進の意識が高まり、市のトレーニング施設での体力測定、医科学相談、トレーニングの利用者数(4～12月)は前年3,167人から4,664人に増加し、対前年比147%の増加率となった。今後は、アスリートヴィレッジ内のコース、施設を活用した気候・地形療法による健康滞在プログラムの推進により、これまで利用の少なかった市民や観光客の利用者の増加が見込まれる。</p> | |
| <p>○成果2→ 宿泊施設入込客数の増</p> | | |
| <p>H19</p> | <p>H20(当初予定していた目標)</p> | |
| <p>382,185人</p> | <p>401,000人</p> | |
| <p>H20(実際に得られた成果)</p> | | |
| <p>284,337人(11月までの累計、対前年同月比90.1%) 6月の宮城・岩手内陸地震、ガソリン高や景気低迷、円高等が大きく影響し、山形県全体の入込客数が大きく落ち込んでいる中で、上山市は1割減に留まっている。宿泊施設入込客数は減少しているが、観光施設である斎藤茂吉記念館の入館者数(10月～12月)は、6,378人から6,871人に増加し、前年比108%の増加率となった。今年度の取組により、地元における気候・地形療法指導者、温泉入浴アドバイザーの育成、医科学的根拠の確立など、今後上山で気候・地形療法を基本とした健康滞在プログラムを実施し誘客推進するための基盤整備が図られた。また、コミュニティビジネスとして果樹の廃材を活用した木製の器の製作、市民団体と高校生・事業者が連携して「ほおづき」を活用した商品開発、ウォーキングに取り組む市民団体の創設等、余暇活動プログラムの実践が現れはじめて、新たなサービス提供の可能性が出てきた。健康志向者に大切な食についても、地場農産物を中心とする食事メニューを開発し、滞在できる食事供給システムの構築にも取り組んだ。さらに、本年3月に実施のシンポジウムや、来年度以降のモニターツアーの実施により、広くPRすることで、今後、宿泊施設入り込み客数も確実に増加することが見込まれる。</p> | | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|-------------------------------|---|-----------------------------|--|---|--|----------------|--|----------------|---|--|---|
| <p>(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点</p> | <p>今年度は、市民や来訪者の健康づくり、そして滞在型の温泉保養地として誘客を進めるための、基盤を確立する様々な事業に着手した。これは上山が、気候、地形、景観などの自然環境が良く、気候・地形療法による健康づくりが大変効果的であるという日本初の医科学的実証により、市民への広報普及と日本全国に情報を発信し、上山を気候・地形療法の理論的・体験的な中心地として確立。この取組は、3月のシンポジウムにおいて各事業の集大成が明確となり、大きな成果が得られた。</p> <p>この新たな上山型温泉保養地を目指していく方針が浸透し拡大しつつあるが、より広範に周知する一方、専門的な理解を深める取組みが重要である。同時に、事業者が丸となり、新しい健康への取り組みである気候・地形療法を活用した誘客を推進する働きかけも必要である。</p> <p>また、人材育成としては、ウォーキングモニター、温泉入浴アドバイザーなど市民の積極的な参加が得られたが、これらの参加者が地域のインストラクター（指導者及び案内人）として活躍できるよう、より高度な専門性を有するような資格取得や講習に今後取り組み、市民と訪問者に提供するシステムづくりが必要であり、このことが重要な課題でもある。</p> | | | | | | | | | | | | |
| <p>(10)平成21年度以降の活動の見込み</p> | <table border="1"> <tr> <td data-bbox="297 308 806 339"> <p>当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</p> </td> <td data-bbox="806 308 2110 339"> <p>今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="297 339 806 435"> <p>広域連携による気候・地形療法の周知・広報</p> </td> <td data-bbox="806 339 2110 435"> <p>① 気候・地形療法を周知広報するため、熊野、由布院等との広域連携による全国サミットの開催 ② 温泉や健康に関する学会や全国的な会議の広域連携による誘致活動 [活用を希望する制度：上記について地方の元気再生事業の継続を希望(想定金額 150万円)]</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="297 435 806 651"> <p>・ 気候・地形療法・温泉療法によるモニターツアーの実施、効果の検証。検証後の気候・地形療法・温泉療法ツアーの本格的な実施。 ・ 企業保険関係者へのメタボ対策PRと実際の企業保険担当者のモニター募集。 ・ 快適な保養地の滞在プログラムのモニター実施。</p> </td> <td data-bbox="806 435 2110 651"> <p>① 日本初の医科学検証に基づく、気候・地形療法を基本とした健康滞在プログラムの確立及び企業のメタボ対策や健康志向の観光客向けのモニターツアーの実施。 ② 気候・地形療法及び温泉療法を中心とするヘルスツーリズム、エコツーリズムの創出と普及広報 [活用を希望する制度：上記について地方の元気再生事業の継続を希望(想定金額 400万円)]</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="297 651 806 866"> <p>当初提案になし</p> </td> <td data-bbox="806 651 2110 866"> <p>① ドイツにおける気候療法士の資格取得によるリーダー育成と気候・地形療法の専門研修による指導補助員、インストラクターの育成 ② 温泉入浴アドバイザー養成研修2期目の実施 ③ 市民向けの気候・地形療法による健康ウォーキング教室の開催 ④ 研修修了者の組織化と支援。 [活用を希望する制度：上記について地方の元気再生事業の継続を希望(想定金額 300万円)]</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="297 866 806 1002"> <p>当初提案になし</p> </td> <td data-bbox="806 866 2110 1002"> <p>① 気候・地形療法と温泉療法の併用による医科学検証を実施するとともに、温泉を活用した皮膚への影響度に関する医科学検証の実施、冬期間における気候・地形療法の医科学検証、モニターツアーにおける医科学検証 ②気候・地形療法の新たなコース調査と設定 [活用を希望する制度：上記について地方の元気再生事業の継続を希望(想定金額 800万円)]</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="297 1002 806 1158"> <p>・ ワークショップで提案された新たなサービスやコミュニティビジネスの試行 ・ 健康志向者食事メニューの開発及び効果調査、健康志向者のモニター実施、</p> </td> <td data-bbox="806 1002 2110 1158"> <p>①着地型旅行プログラム及びコミュニティビジネスの試行 ②果物を中心とする新しい食事メニュー開発とサービス及び商品の開発 ③飲用温泉水の食への活用調査 [活用を希望する制度：上記について地方の元気再生事業の継続を希望(想定金額 95万円)]</p> </td> </tr> </table> | <p>当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</p> | <p>今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</p> | <p>広域連携による気候・地形療法の周知・広報</p> | <p>① 気候・地形療法を周知広報するため、熊野、由布院等との広域連携による全国サミットの開催 ② 温泉や健康に関する学会や全国的な会議の広域連携による誘致活動 [活用を希望する制度：上記について地方の元気再生事業の継続を希望(想定金額 150万円)]</p> | <p>・ 気候・地形療法・温泉療法によるモニターツアーの実施、効果の検証。検証後の気候・地形療法・温泉療法ツアーの本格的な実施。 ・ 企業保険関係者へのメタボ対策PRと実際の企業保険担当者のモニター募集。 ・ 快適な保養地の滞在プログラムのモニター実施。</p> | <p>① 日本初の医科学検証に基づく、気候・地形療法を基本とした健康滞在プログラムの確立及び企業のメタボ対策や健康志向の観光客向けのモニターツアーの実施。 ② 気候・地形療法及び温泉療法を中心とするヘルスツーリズム、エコツーリズムの創出と普及広報 [活用を希望する制度：上記について地方の元気再生事業の継続を希望(想定金額 400万円)]</p> | <p>当初提案になし</p> | <p>① ドイツにおける気候療法士の資格取得によるリーダー育成と気候・地形療法の専門研修による指導補助員、インストラクターの育成 ② 温泉入浴アドバイザー養成研修2期目の実施 ③ 市民向けの気候・地形療法による健康ウォーキング教室の開催 ④ 研修修了者の組織化と支援。 [活用を希望する制度：上記について地方の元気再生事業の継続を希望(想定金額 300万円)]</p> | <p>当初提案になし</p> | <p>① 気候・地形療法と温泉療法の併用による医科学検証を実施するとともに、温泉を活用した皮膚への影響度に関する医科学検証の実施、冬期間における気候・地形療法の医科学検証、モニターツアーにおける医科学検証 ②気候・地形療法の新たなコース調査と設定 [活用を希望する制度：上記について地方の元気再生事業の継続を希望(想定金額 800万円)]</p> | <p>・ ワークショップで提案された新たなサービスやコミュニティビジネスの試行 ・ 健康志向者食事メニューの開発及び効果調査、健康志向者のモニター実施、</p> | <p>①着地型旅行プログラム及びコミュニティビジネスの試行 ②果物を中心とする新しい食事メニュー開発とサービス及び商品の開発 ③飲用温泉水の食への活用調査 [活用を希望する制度：上記について地方の元気再生事業の継続を希望(想定金額 95万円)]</p> |
| <p>当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</p> | <p>今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</p> | | | | | | | | | | | | |
| <p>広域連携による気候・地形療法の周知・広報</p> | <p>① 気候・地形療法を周知広報するため、熊野、由布院等との広域連携による全国サミットの開催 ② 温泉や健康に関する学会や全国的な会議の広域連携による誘致活動 [活用を希望する制度：上記について地方の元気再生事業の継続を希望(想定金額 150万円)]</p> | | | | | | | | | | | | |
| <p>・ 気候・地形療法・温泉療法によるモニターツアーの実施、効果の検証。検証後の気候・地形療法・温泉療法ツアーの本格的な実施。 ・ 企業保険関係者へのメタボ対策PRと実際の企業保険担当者のモニター募集。 ・ 快適な保養地の滞在プログラムのモニター実施。</p> | <p>① 日本初の医科学検証に基づく、気候・地形療法を基本とした健康滞在プログラムの確立及び企業のメタボ対策や健康志向の観光客向けのモニターツアーの実施。 ② 気候・地形療法及び温泉療法を中心とするヘルスツーリズム、エコツーリズムの創出と普及広報 [活用を希望する制度：上記について地方の元気再生事業の継続を希望(想定金額 400万円)]</p> | | | | | | | | | | | | |
| <p>当初提案になし</p> | <p>① ドイツにおける気候療法士の資格取得によるリーダー育成と気候・地形療法の専門研修による指導補助員、インストラクターの育成 ② 温泉入浴アドバイザー養成研修2期目の実施 ③ 市民向けの気候・地形療法による健康ウォーキング教室の開催 ④ 研修修了者の組織化と支援。 [活用を希望する制度：上記について地方の元気再生事業の継続を希望(想定金額 300万円)]</p> | | | | | | | | | | | | |
| <p>当初提案になし</p> | <p>① 気候・地形療法と温泉療法の併用による医科学検証を実施するとともに、温泉を活用した皮膚への影響度に関する医科学検証の実施、冬期間における気候・地形療法の医科学検証、モニターツアーにおける医科学検証 ②気候・地形療法の新たなコース調査と設定 [活用を希望する制度：上記について地方の元気再生事業の継続を希望(想定金額 800万円)]</p> | | | | | | | | | | | | |
| <p>・ ワークショップで提案された新たなサービスやコミュニティビジネスの試行 ・ 健康志向者食事メニューの開発及び効果調査、健康志向者のモニター実施、</p> | <p>①着地型旅行プログラム及びコミュニティビジネスの試行 ②果物を中心とする新しい食事メニュー開発とサービス及び商品の開発 ③飲用温泉水の食への活用調査 [活用を希望する制度：上記について地方の元気再生事業の継続を希望(想定金額 95万円)]</p> | | | | | | | | | | | | |

アスリートヴィレッジと市民活動の融合による 在型快適温泉地環境プロジェクト(山形県上山市)

平成20年度 地方の元気再生事業
事業実施調書 参考資料

—上山市温泉保養地まちづくり協議会—

◆主な実施取組の内容◆

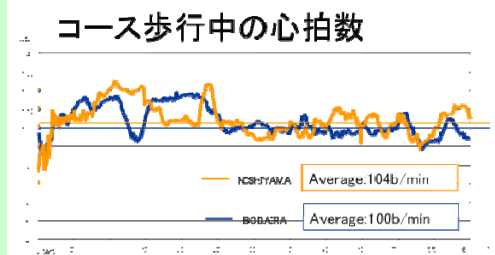
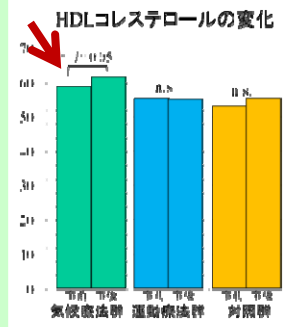
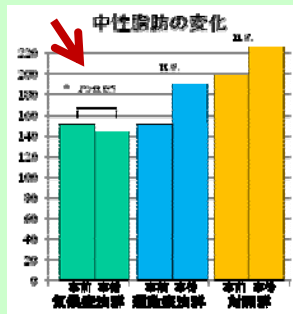
実施取組内容・結果

取組①「新たな温泉保養地を目指す気候・地形療法プログラム効果検証」

平地と千mでの気候・地形療法(ドイツの気候・地形療法を基礎)を行うコースを設定し、ミュンヘン大学のシュー博士から日本初のコース鑑定を取得。、そこでの気候・地形療法を4週間16回実施(参加者、歩行31名、自転車運動10名、採血のみ10名、総勢51名、歩行回数16回)。期間中に身体機能変化、生化学検査、メンタルヘルスの評価などを実施した。

千mの蔵王高原坊平、200mの西山の両方のコースで、適正な心拍数を記録し、安全で適切な運動が実施できるコースであることが検証できた。

また、身体機能面、生化学検査、メンタルヘルスそれぞれの評価で、気候・地形療法は一般の同じ回数・強度・時間の運動療法を実施した群(運動療法群)、まったく運動を行わなかった群(対照群)と比較してデータを解析。中性脂肪値の減少、HDLコレステロール値の上昇など健康上優れた効果を示した。詳細な解析内容を基に3月のシンポジウム時に公表予定。



ミュンヘン ユーニヴァーシティ
健康科学部 健康科学学研究室
部長 Dr. ゲーハルト・シュルツェン教授 Prof. Dr. Gerald Stuck
助部長 医学部健康科学部長 Dr. アンゲラ・シュー教授 Prof. Dr. Angela Schulz

上山、テレリンクアコース測定と等級分け
(気候を利用したテレリンクア: 地形療法)

鑑定人
Dr. med. アンゲラ・シュー教授

2008年09月 ミュンヘン

日本初 ミュンヘン
大学からの気候・地
形療法コース鑑定書



実施取組内容・結果

取組②「新たな温泉保養地を目指す人材育成とプログラムの事業化」

59名参加による上山温泉入浴アドバイザー研修会開催

取組③「健康志向者向け食事メニューの開発」
地元食材の掘り起しとともに、多様な在来作物など独自の食文化の豊かさが明らかになり、メニュー試作を展開。

取組④「市民活動融合のワークショップ」
・滞在型の温泉保養地に必要な具体的な取組を提起し、一部取組開始。

②温泉入浴アドバイザー研修会

③地元の食材のメニュー開発



④新技術の習得による果樹木活用の新たな食器開発



◆取組実施による成果・今後の展開◆

◎成果: 日本で初めて、ミュンヘン大学シュー教授の鑑定で気候・地形療法の歩行コースを3か所設定。鑑定し設定された2コースで気候・地形療法の効果を検証。現在日本で初めての検証データを一部解析したが中性脂肪値の減少、HDLコレステロール値の上昇など健康上優れた効果を示した。詳細な解析結果は3月のシンポジウムで公表。

◎今後の展開: 医学効果を強調した各種の事業展開。温泉や健康に関する会議等、全国サミットの開催。日本初の医学検証に基づく健康滞在プログラムの確立とモニターツアーの実施。気候・地形療法と温泉療法の併用による医学検証等。着地型旅行プログラム及びコミュニティビジネスの試行。果物を中心とする健康に適した食事メニュー開発と商品化等、気候・地形療法のインストラクターの育成とコミュニティビジネス化。市民向けの気候・地形療法健康教室の開催気候・地形療法グループの組織化と支援。ドイツにおける気候療法士の資格取得(リーダー育成)、気候・地形療法の専門研修(多数の指導者補助員・インストラクター育成)、温泉入浴アドバイザー養成研修2期目の実施。